

◆ 研 究 ノ 一 ト

初級中国語テキストの発音表記について

Chinese phonetic transcription in the primary textbooks

荒木 典子*

1 はじめに

「普通話」(Mandarin)は、世界一の国土面積と人口を有する中国を統べるために作られた標準語である。首都・北京を中心とする北方の口頭語を基盤とした人工言語で、国家が規範を作り、その規範は時代に合わせて改定していくことが求められ続けている。

1956年「国务院发布关于推广普通话的指示」により、中国科学院語言研究所にて、語彙規範を目的とした辞書が作られることになった。同年夏に着手され、1959年に初稿が完成、1960年に試印本が作られ、これに修訂を加えた試用本が1965年に作られた。1973年、更に修訂を加え内部で発行されたが、四人組による妨害と破壊に遭う。1977年末にようやく修訂が終わり、出版部門へ送られ、1978年に『現代漢語詞典』(以下『現漢』)第1版が商務印書館から発行された¹。以来、2016年11月現在、第7版まで発行されている。いわば国家のお墨付きを得た辞書であるから、中国国内外の普通話非母語話者の最大の拠り所としての役割が期待されている。

38年間に7回も版を重ねたのは、語彙や発音において汲むべき実情の変化があったからなのとは言うまでもない。比較的新しいところでは、第5版(2005年)から第6版(2012年)への改訂は反響を呼んだ。当時の様子は、東方書店webサイトでは「7年ぶり改訂 『現代漢語詞典』に学者らが異議」²から伺える。6000余りの親字、3000余りの語彙が追加され、この中には多くの新語、ネット用語が含まれているが、英語の語句や英文をそのまま取り込むことは漢字文化を破壊すると有識者達が反論したという。また、田・徐(2014)³では発音注記が実際の発音と食い違っていることを指摘している。発音、特に轻声に関する変更については日本国内でも注目され⁴、杉本達夫・牧田英二・古屋昭弘『デイリーコンサイス中日・日中辞典』第3版(三省堂、2015年)では特に「『現代漢語詞典』第5版と第6版

*都市教養学部 人文・社会学系

人文科学研究科

¹ 『現代漢語詞典』第7版所収「初版前言」。

² <https://www.toho-shoten.co.jp/beijing/bj201212.html> (2016年11月23日閲覧)

³ 田蔵・徐英東『現代漢語詞典』第6版の音声と音韻について、『日中語彙研究』第4号:49-65頁、愛知大学中日大辞典編纂所。

⁴ 例えば以下のサイトで言及されている。

「三宅登之-文法を研究してますけど何か?」<http://sanzhai.exblog.jp/18511247/>
(2016年11月23日閲覧)

「中国語徒然草 by 小桜」<http://tenoya.exblog.jp/16493599/> (2016年11月23日閲覧)

の発音変更一覧」(p. 831-837、以下「発音変更一覧」とする)のページを設け、主に見出し語で変更があった語を、非轻声から轻声への変更、非轻声から轻声・非轻声への変更、轻声・非轻声から轻声のみへの変更、轻声・非轻声から非轻声のみへの変更、轻声から轻声・非轻声への変更、轻声から非轻声への変更、轻声関連以外のもののグループに分け、異同を把握できるようにしている。このような変化に非母語話者を対象とした教育の現場はどのように対処しているのだろうか。日本国内のすべての教科書編纂者が『現漢』に基づいているとは限らないが、『現漢』に収録されているような中国語の変化をなんらかの形で察知していることは間違いない。本報告では「発音変更一覧」に挙げられている語のうち、初・中級教科書に出てくる頻度の比較的高いものを対象に、『現漢』第6版刊行以後の教科書での発音表記の調査結果をまとめた。

2. 調査の対象と方法

今回調査したテキストは以下の18種である。

| | 書名 | 監修 | 著者 | 発行時期 | 出版社 |
|---|-------------------------|-------|-----------------------|----------------|-------|
| ① | 中国語の翼 | 山田留里子 | 長野由季、 土居智典 | 2014年4月1 日 | 郁文堂 |
| ② | キャンパス中国語 | | 朱春躍、 崎原麗霞 | 2015年1月15 日 | 朝日出版社 |
| ③ | LOVE! 上海 初級中国語 | | 楊凱榮、張麗 群 | 2015年1月15 日 | 朝日出版社 |
| ④ | 好きです♡中国語 会話編 | | 靳衛衛、中村 俊弘、王峰 | 2015年4月1 日 | 朝日出版社 |
| ⑤ | 好きです♡中国語 文法編 | | 中村俊弘、吉 田泰謙、郝佳 璐 | 2015年4月1 日 | 朝日出版社 |
| ⑥ | 500 語マスター やさしい中国語 | | 山田眞一 | 2015年4月1 日 | 同学社 |
| ⑦ | ほあんいん! 中国語 ＜基礎編＞ 改訂版 | | 大谷通順、 中野徹、中根 研一 | 2015年4月1 日 | 郁文堂 |
| ⑧ | LOVE! 上海2 ―初級～ 中級編― | | 楊凱榮、張麗 群 | 2016年1月15 日 | 朝日出版社 |

| | | | | | |
|---|----------------------------------|-----|------------------------|--------------------|--------|
| ⑨ | アクション！开始！ —コミュニケーション中 国語— | 古川裕 | 鈴木慶夏 | 2016 年 1 月 15 日 | 朝日出版社 |
| ⑩ | 楽しい中国語第一歩 | | 山下輝彦 | 2016 年 1 月 15 日 | 朝日出版社 |
| ⑪ | 学ぶ中国語—初中級編— | | 王亜新、劉素 英 | 2016 年 1 月 15 日 | 朝日出版社 |
| ⑫ | 改訂版 たのしくできる We can! 中国語 初級 | | 徐送迎 | 2016 年 1 月 15 日 | 朝日出版社 |
| ⑬ | いま始めよう！アクティ ブラーニング —初級中国語— | | 陳淑梅、張国 璐 | 2016 年 1 月 15 日 | 朝日出版社 |
| ⑭ | チャレンジ！ 二年生の中国語 | | 南勇 | 2016 年 1 月 15 日 | 朝日出版社 |
| ⑮ | 新・ゼロから学ぶ中国語— 検定試験合格への道のり | | 周一川、郭海 燕、賈曦 | 2016 年 2 月 1 日 | 朝日出版社 |
| ⑯ | 改訂版 スタートライン 中国語 I | | 久米井敦子、 余慕 | 2016 年 3 月 1 日 | 駿河台出版社 |
| ⑰ | 新訂・シンプルに中国語 | | 荒川清秀、張 筱平、上野由 紀子 | 2016 年 4 月 1 日 | 同学社 |
| ⑱ | 思いっきり中国語 | | 車麗 | 2016 年 4 月 1 日 | 同学社 |

これらは日本国内で大学の初級～中級向けクラスで使用することを念頭に編まれたものである。本報告では 2014～2016 年の間に発行された版を対象とした。これは、『現漢』第 6 版刊行以後、教科書編纂に反映されるまでの作業時間を考慮したためである。主に軽声に関する変更のあった、初級で出てくる頻度の高い幾つかの語彙の発音を、以上の教科書でどのように表記しているかを調査した。

3. 調査結果

1)～3)の 3 パターンの変化について調べた。見出し語ごとに、⇒の左側に第 5 版の発音表記、右側に第 6 版の表記を記した。続いて当該の語を記載している教科書でどちらの表記を採用しているかを記してある。

1) 第5版では轻声・非轻声どちらも記載されていたが、第6版では非轻声のみを記載している語

【白天】báitiān, báitian ⇒ báitiān

“báitiān” : ⑪ (p. 70)、⑬ (p. 38)

“báitian” : なし

【～面】～miàn, ～mian (～ : 方位詞。“対面”は除く) ⇒ ～miàn

“～miàn” : ⑤ (p. 43)、⑧ (p. 82)、⑫ (p. 25)、⑮ (p. 57)、⑯ (p. 50)

“～mian” : ⑦ (p. 44)、⑬ (p. 50)、⑰ (p. 31)

第6版と同じく非轻声化が優勢である。これらと同時に “対面” duìmiàn を教えるとなると両方去声とした方が説明がしやすく学習者の負担を減らせるという要因も考えられる。

【看/听见】kàn/tīng jiàn, kàn/tīng jian ⇒ kàn/tīng jiàn

“kàn/tīng jiàn” : ③ (p. 94)、⑤ (p. 36)、⑦ (p. 72)、⑩ (p. 46)

“kàn/tīng jian” : なし

今回調査した教科書では轻声にするものがなかった。今後、その他の結果補語も併せて調査したい。

【生日】shēngrì, shēngri ⇒ shēngrì

“shēngrì” : ② (p. 42)、⑦ (p. 35)、⑨ (p. 90)、⑩ (p. 26)、⑫ (p. 73)、⑯ (p. 39)

“shēngri” : ⑮ (p. 46)

第6版と同じく非轻声化が優勢。

【小心】xiǎoxīn, xiǎoxin ⇒ xiǎoxīn

“xiǎoxīn” : ② (p. 34)、⑨ (p. 113)、⑭ (p. 61)

“xiǎoxin” : なし

第6版と同じく非轻声化が優勢。

以上のように、従来、轻声、非轻声どちらも認められていた語に関しては非轻声を積極的に採用する傾向が見られる。

2) 第5版では轻声のみが記載されているが、第6版では轻声、非轻声どちらも記載されている語

【学生】xuésheng ⇒ xuéshēng, xuésheng

“xuéshēng” : ③ (p. 14)、⑥ (p. 12)、⑦ (p. 30)、⑨ (p. 38)、⑪ (p. 8)、⑫ (p. 16)、⑬ (p. 24)、⑮ (p. 18)

“xuésheng” : なし

この語を非轻声で教えるようになるにはまだ長い時間が必要ではないだろうか。1) で挙げた見出し語は、非母語話者の報告者にとっては概ね第5版、第6版どちらの表記によって発音しても問題は生じないように思える。しかし、この語は “大学生”、“留学生” などのように前に何かつかない限り “xuésheng” で耳にすっかり馴染んでいる。“学生” は大学に

おける中国語の授業において使用頻度の最も高い語のひとつである。台湾式発音の影響もあるのだろうか。第6版で“xuésēng”も採用するようになった経緯の解明が待たれる。

3) 軽声以外

【一会儿】yīhuìr ⇒ yīhuìr(口語 yīhuìr)

“yīhuìr”⁵: ⑥ (p. 14)、⑦ (p. 46)、⑧ (p. 39)、⑨ (p. 99)、⑪ (p. 46)

“yīhuìr” : ⑨「口語では yihuìr と発音される場合もあります」と注記 (p. 99)

中国語母語話者の間でもしばしば意見の分かれる語である。田・徐 (2014:50) では次のエピソードを紹介している。

学生時代“yīhuìr”と辞書のピンイン通り教えられ、そのまま覚えていた日本の友人が、近年教科書を作るに当たり若い人から「“yīhuìr”とすべきだ」と指摘され、『現漢』を見たら“yīhuìr”だった。しかしずっと中国の人が“yīhuìr”と言うのを聞いてきたのだ。筆者は両方とも正しいと答えたが、辞書が第3声の発音を取りやめた理由は答えられなかった。第6版では“一会儿”とも読むという注をつけ、もとの発音を復活させた。(要約)

試みに1963年発行の倉石武四郎『岩波中国語辞典』を紐解いてみるとp. 648に確かに“yihuìr”と出ている。かつては辞書にも載っていた“yīhuìr”が正式な場から葬り去られた経緯の解明は別の機会に譲る。

4. 小結

外国で教科書を編纂するとなれば、本国での変化に対応するまでのタイムラグは当然ある⁶。本国で起きた変化が、その語の規範として取り入れられるのを待ち、そのように会話することが問題にならない、むしろより自然になると見極めたうえで教科書に記載される。今回調査した見出し語から、軽声・非軽声両方が認められていた語は非軽声を積極的に採用する傾向が見られた(“学生”は除く)。辻田 (2004)⁷によると軽声詞は増加しているのかあるいは減少しているのかという問題は1950年代から議論されているが、現時点ではどちらとも断定できないという。ただ、辻田 (2004:143) でも指摘しているように、普通話の重要な特徴である軽声は外国人や方言話者にとって難しいものであるとしたら(外国人や、高いレベルの普通話が求められる職業の人には軽声が重点的に教育されるという)、普通話が使用範囲を拡大していくに当たり不可避の、原則を貫くか妥協するかという大きな壁ともいえるのではないだろうか。話し手が増えれば増えるほど、発音するのが困難と感じる人が多勢を占める要素は消えてしまうかもしれない。

5 “一”を変調後の表記にするかどうかは教科書によって不統一である。

6 戦前の中国語教科書におけるこの現象については拙論2013「疑問語気助詞“嗎”“麼”について—民国期及び戦前の日本の状況—」(『太田斎・古屋昭弘両教授還暦記念中国語学論文集』: 207-216)を参照。

7 辻田正雄「軽声について」、『文学部論集』第88号:143-158、佛教大学文学部。

余談になるが、調査対象の語彙から外したが、第 6 版において非轻声化のみになった語に“小姐”(xiǎojiě, xiǎojie ⇒ xiǎojiě)がある。上声+轻声の語には、第一音節が変調する場合としない場合があり、この語は変調する場合であるというのを入門段階の学習者に説明するのは困難であった。従来、教科書のごく最初の方で出てくるものであったからだ。最初から“xiǎojiě”と書くことにすれば教えやすくなると思ったが、今回調査した教科書でこの語を採用するものはなかった。これも時代の流れを反映したものであろう。

【付記】p.42、2)に関して、本稿の脱稿後、中国大陸出身のネイティブスピーカーの女性(20代)から「小学校の教科書には“学生” xuéshēng とあり、ずっと第 1 声で発音している」という教示を受けた。